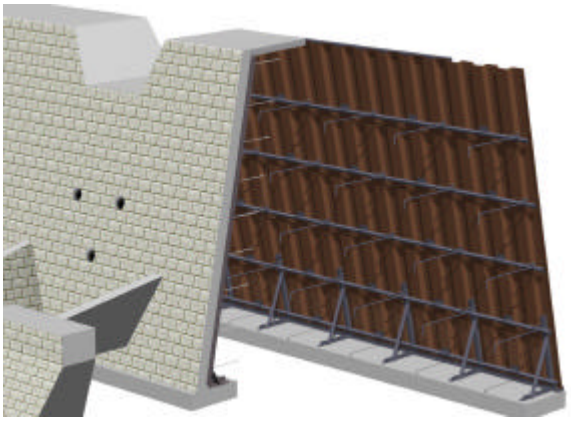
# LUC-SB ウォール工法

## 概　要

LUC－SB ウォール（Steel wall or concreteBlock Wall）工法は、L.U.C.工法により構築した堤体内部材（L.U.C.材）の上流壁面材に軽量鋼矢板、下流壁面材にはコンクリートブロックを配することにより、土石流対策堰堤、砂防堰堤等に要求される耐摩耗性、耐衝撃性能を確保し、より合理的でコストパフォーマンスに優れた砂防構造物を構築する工法です。

＜L.U.C.工法とは＞

L.U.C.(Low paste concrete by Using Crusher-run)工法は、主材料にクラッシャラン（道路用砕石）をセメント、水と混合し、ダンプトラック等で運搬して、ブルドーザー等で敷き均し、振動ローラーで締め固め、砂防堰堤等の内部材として使用する工法です。この方法は、現地発生材を利活用し、高い施工性と経済性、環境に優しい工法として注目されている「CSG 工法」「INSEM 工法」等の砂防ソイルセメント工法の補完的な工法として位置づけられています。



## 用　途

- 砂防堰堤（土砂流堰堤）、護岸
- 擁壁、人工地盤

## 実　績

## 特　徴

- **高い汎用性**　LUC－SB ウォール工法は、安価で均一性の高いクラッシャランを主材料とした L.U.C.工法を砂防堰堤の内部材に適用することで汎用性を高め、壁面材として鋼矢板、コンクリートブロックを適所に配することで設計施工を合理化し、より汎用的で、構造的に信頼が高く、経済性に優れる砂防構造物の構築を実現します。
- **コスト縮減**　汎用性の高い骨材（道路用砕石）高炉セメント、水等の現場混合により、製造された L.U.C.材を砂防施設の内部材として活用することで従来の重力式コンクリート堰堤と比較して大幅なコスト縮減が図れます。
- **景観の向上**　LUC－SB ウォール工法では、下流壁に景観性の高い修景コンクリートブロックを標準としています。
- **施工性の向上、工期の短縮**　施工方法はフィルダムの施工に類似しており、特別な建設機材の導入を必要とせず、施工が容易です。また、横目地が不要で外壁材の設置、L.U.C.材の敷き均し、締め固めと一連の作業が連続し、養生期間が短く、大幅な工期の短縮が図れます。
- **現地発生土の有効活用**　L.U.C.材の主材料であるクラッシャランに現地発生材を混合し、活用することが可能です。通常施設施工においては、堤体体積の約３０％程度が残土として搬出されており、これらを内部材に活用することにより建設残土の発生を抑えられます。

**共和コンクリート工業株式会社**　担当　東京営業本部　特販チーム　樋口経太　（昭和６０年卒）
TEL　０３－３９４３－４６４４　　FAX　０３－５９４０－２４０５